

2025年度 事業報告書(2025年10月～2026年3月)

1. 基本情報

- 団体名: 一般社団法人 Sorairo
- 代表者名: 代表理事 柏瀬 眞美
- 所在地: 〒183-0022 東京都府中市宮西町
- 設立年月日: 2025年10月15日
- 事業年度: 2025年10月15日～2026年3月31日

2. 事業の目的

本法人は、流産・死産・新生児死などの周産期喪失(ペリネイタルロス)をはじめ、大切な存在を失いグリーフ(喪失に伴う悲嘆)を抱える方々が孤立せず、安心してありのままの感情を表現できる場を提供することを目的とする。

「空を見上げればつながるように」という理念のもと、当事者支援および支援者育成の双方から、悲しみに寄り添い支え合えるつながりを地域に広げることで、心の回復と社会的孤立の防止に寄与する。

3. 実施した事業の概要

- グリーフサポート事業(対面・オンライン):
専門職(助産師・心理師等)とピアサポーターによる個別相談およびグループワークの実施。
- 居場所づくり事業(Soraカフェ):
同じ体験を持つ当事者同士が安心して想いを共有できる交流会の開催。
- 啓発・研修事業:
専門職向けのグリーフケア実践セミナーの開催および情報発信。

4. 具体的な活動実績

実施内容	実施回数	参加者数(延べ)	対象・備考
Soraカフェ(交流会)	1回	2名	流産・死産等を経験した当事者
個別グリーフ相談	2回	2名	対面・オンラインによる個別ケア
専門職向けセミナー	1回	70名	行政書士ADRセンター東京等での研修
地域連携会議への参加	3回	-	府中市子育て会議等への出席

5. 成果・変化

- 孤立感の解消:
参加者アンケートにて「自分一人ではないと感じられた」
「言葉にならない想いをそのまま受け止めてもらえた」
という回答が100%に達した。
- 支援の隙間の充足:
既存の行政支援では届きにくい「流産・死産後の身体と心のケア」という専門領域において、具体的な相談窓口としての認知が拡大した。
- 参加者の声:
「誰にも言えなかった悲しみを、初めて安心して話すことができました。」
「ここに来て、また前を向けそうな気がします」
「喪失感を抱えた人の心理的プロセスが理解できた。今後は事務的な対応だけでなく寄り添いを大切にしたい(セミナー参加者)」

6. 課題・今後の必要性

- 継続的な場の確保:
当事者からのニーズは高いものの、安定した運営会場と運営資金の確保が急務である。
- 認知度のさらなる向上:
まだ支援に繋がっていない潜在的な当事者へ情報を届けるための、アウトリーチ活動と広報体制の強化が必要。
- 支援対象の拡大:
パートナー(父親)やきょうだい児へのグリーフサポートなど、家族全体を支えるプログラムの構築に加え、離別や家族関係の変化など、周産期喪失に限らない多様な喪失体験に対する支援ニーズも見え始めている。

7. 今後の展開

- 「ママのケアセット」:
2026年度より、退院後すぐに必要となる身体と心のケア用品をセットにして提供する事業の基盤づくり。
- 多職種連携の深化:
地域の産婦人科や葬祭業者、行政との連携をより強固にし、切れ目のない支援体制を構築する。
- オンラインコミュニティの充実:
地域を問わず、いつでも繋がれるデジタルプラットフォームの運用を開始する。

8. 組織体制

- 役員:代表理事 柏瀬 眞美(他、理事2名)
- 専門スタッフ:助産師、公認心理師、看護師、不妊症・不育症ピアサポーター、キャリアコンサルタント
- アドバイザー:医師
- ボランティア:6名

9. 収支の概要(簡易)

- 主な収入: 設立時拠出金、会費、寄付金、研修講師謝礼
- 主な支出: 会場使用料、資料制作費、通信運搬費、事務手数料